

質問事項に関する回答書

(件名)磐越自動車道 龍ヶ嶽トンネル工事

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
1	5月8日	特記仕様書	P25	(2)	混合廃棄物(安定型)の処分施設場所が曽根建(株)となっております。処分施設に確認したところ現在埋立処分類の受入は行っておらず、県またぎの新潟県なので取り扱いが出来ないと回答がありました。「混合廃棄物(安定型)」の処分施設先をご教示お願いします。	特記仕様書17-2(2)に示す処理施設を変更いたします。上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
2	5月8日	特記仕様書	P54	(2)	工事用道路撤去復旧工AおよびBの区分内容では土工事関連の項目が記載されています。一方、設計図(共通)24/33および26/33の撤去内訳に記載されている項目は土工事関連以外の排水工等の撤去も記載されています。当該の単価項目には土工事関連以外の撤去内訳に記載されているものが含まれると考えてよろしいでしょうか。含まれない場合は排水工等の撤去に関する項目の単価項目をご教示お願いします。	設計図(共通編)24/33及び26/33に示す排水工等の撤去も含まれるものとお考えください。
3	5月8日	設計図(共通)	24/33、26/33		撤去内訳表に記載されている項目の排水工、集水ます、ガードレール、大型土のう、敷鉄板は撤去後はその場で処分するのか運搬保管するのか不明です。ご教示お願いします。	鋼材(ガードレール・敷鉄板)に関するものは坑外仮置き場への運搬をするものとし、それ以外は処分するものとしてお考えください。上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
4	5月8日	数量明細書	(15)	142	中央排水工Bの明細数量が3628.6m、契約数量3629mとなっております。トンネル設計図151/191の接続管の延長分が含まれていないと考えられますが、接続管分を計上する単価項目をご教示お願いします。	設計図書をご確認ください。また、接続管分は横断排水工Bに含まれます。
5	5月8日	特記仕様書	P50	(2)	撤去工鋼材の、鋼製ロックボルト・鋼アーチ支保工・ライナープレート・H鋼・立入防止柵及び、立入防止網・避難坑扉・防護柵(ガードレール)それぞれの重量が設計図書及び公表資料からも不明です。ご教示お願いします。	設計図(龍ヶ嶽トンネル編)183～188/191をご確認ください。
6	5月8日	設計図(共通)	26/33		撤去内訳表に記載されている項目のアスファルト舗装の単位は「m3」となっていますが、「m2」ではなく表記通りの「m3」でしょうか。ご確認ください。	設計図(共通編)26/33に示すアスファルト舗装の単位は「m2」となります。上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
7	5月8日	特記仕様書	P34	24-9(2)	残土処理において「本線外盛土場における・・・」とありますが、本線外盛土場①～⑥のごへ搬出するのをご教示お願いします。	特記仕様書24-9-1(1)の記載に対する内容ですので、本線外盛土場⑥となります。
8	5月8日	設計図面 4/16、1の再質問		鬼光頭川橋下部工編 構造物掘削他	土砂及び軟岩の種類と数量を伺ったところ『土砂区分は土砂Ⅰ及び軟岩とお考えください。数量は単価表及び数量明細表に基づき、お考えください。』との回答をいただきましたが、土軟岩別の数量は数量明細表に記載されていませんので提示願います。	設計図書に基づき貴社にて構造物掘削ラインを計画し、その計画に基づき必要と思われる費用を計上してください。
9	5月8日	設計図面 4/16、3の再質問		鬼光頭川橋下部工編 仮設構台	作業構台の覆工板の面積や上下部工・基礎工の重量、基礎くい打設における土砂区分について伺ったところ『工事用作業構台の覆工板面積及び上下部工・基礎工の重量は、設計図書に基づきお考えください。基礎杭の施工における土砂区分は土砂Ⅰ及び軟岩とお考えください。』との回答をいただきましたが、数量表や柱状図等も図面になく設計図書で考えることは困難のように思います。また、仮にできたととしても発受注者相互の確認ができませんので、土木工事請負契約における設計変更ガイドラインP10の『契約条件の適切な明示』の主旨に沿った条件の提示がされることを期待いたします。	土砂区分は設計図(鬼光頭川橋下部工編)51～57/70を参考に貴社にて構造物掘削ラインを計画し、その計画に基づき必要と思われる費用を計上してください。また、柱状図については同設計図3/70に示すとおりです。数量表については、後日、交付図書を訂正いたします。

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
10	5月8日	特記仕様書 4/16、5の再質問		17.再生資源及び建設副産物に関する事項	特記仕様書17-2(2)再資源化をする施設の名称及び所在地がコンクリート塊他では積算上の条件が明示されていなかったので、金属くずについても積算上の条件を質問したものです。また、土木工事請負契約における設計変更ガイドラインP11でも『建設副産物関係3.建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場所等の処理条件』を明示する旨の記載がありますが、条件明示はできないということでしょうか。	金属くずの処分については、R6.4.26当社HP掲載の「質問に対する回答書31(番号2)」をご確認ください。
11	5月8日	特記仕様書 4/16、10の再質問		25.割掛対象表の項目に示す工事の内容	吹付設備上屋費・汚濁水処理設備上屋費の仕様について質問いたしましたが『割掛対象表参考内訳書に関する質問は受け付けておりません。貴社の施工計画に基づき、必要と思われる費用を計上してください』との回答をいただきました。これは契約後当方の施工計画以上のものを要望された場合、設計変更の対象と考えてよろしいでしょうか。	当社の土木工事標準契約書(令和6年4月1日適用)18条及び19条に該当する事象が発生した場合は変更の対象となります。
12	5月8日	設計図面 特記仕様書		鬼光頭川橋下部工編 構造物掘削	鬼光頭川橋 橋梁一般図(4/70)及びA1橋台埋戻し計画図(70/70)は親杭やアンカー等を存置する図面になっていますが、特記仕様書の特殊部Aは撤去することになっています。どちらが正でしょうか。	グラウンドアンカー式土留工のアンカーはアンカーヘッド部分から撤去し、残る部分は残置となります。
13	5月8日	特記仕様書		構造物掘削 特殊部A	ダウンザホールハンマ工法の土質区分毎の掘削長が不明ですので、数量の提示をお願いします。また、『親杭横矢板の設置はダウンザホールハンマ工法を使用するものとし、撤去は油圧式杭圧入引抜機による』とありますが、打込みも油圧式杭圧入引抜機を使用すると考えてよろしいでしょうか。	掘削長は設計図(鬼光頭川橋下部工編)42~44/70のとおりです。撤去は特記仕様書24-4(1)のとおりです。
14	5月8日	設計図面	参考図3/25	DⅢ4-A(H)-K断面	インパルト仮埋戻しの数量の提示をお願いします。	貴社の施工計画に基づきお考えください。
15	5月8日	設計図面	トンネル編 174~178/191		コンクリート構造物取壊し(TypeA)の数量が設計数量5.194m3に対して、図面は5.071m3と少ないので数量の確認をお願いします。	設計図(龍ヶ嶽トンネル編)57~65/191の数量も含めてお考えください。
16	5月8日	設計図面 特記仕様書	鬼光頭川橋下部工編45/70他 24-32		特記仕様書24-32(3)1)では底板コンクリートの強度が $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ となっていますが、図面はC2-1になっています。C2-1であれば $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ と思いますので、コンクリートの種別の確認をお願いします。	底板コンクリートの強度は $\sigma_{ck}=24N/mm^2$ が正となります。上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
17	5月8日	割掛項目参考図	防音壁工A 防音壁工B		参考図に基礎が土砂と軟岩の2タイプを示していますが、それらの数量が提示されていないので、割掛項目毎の数量の提示をお願いします。	参考図及び割掛対象内訳書を参考に、貴社の計画に基づき必要と思われる費用を計上してください。 【訂正】 防音壁工の基礎区分について、防音壁工Aは土砂基礎、防音壁工Bは軟岩基礎となります。